

# 関東ふれあいの道を歩く (6) 神奈川 (㊦湘南海岸・砂浜のみち)

2019年6月17日 池内 淑皓

2019年5月3日(金) 晴れ、前回に引き続き小田急線片瀬江の島駅がスタートとなる。今回は太平洋岸自転車道(青少年サイクリングコース)を歩く事になるが、ウォーカーには変化の少ない単調なコースだと思う。

浜辺を歩いたり、しらす魚を見学したり、地引網を覗いたり、令和の連休を楽しんだ。自転車のすれ違いに注意が必要。



㊦湘南海岸・浜辺のみち (首都圏自然歩道連絡協議会)  
片瀬江の島駅→新江ノ島水族館→辻堂海岸→茅ヶ崎海岸→柳島 概念図



片瀬江の島駅から浜見平団地バス停までの行程図



今日の出発地点は、藤沢橋の袂にある“藤沢市観光センター”前から始まる。  
ここには、いろいろな種類のパンフレットが置いてあるから、情報を入手しよう。



観光センターの後は片瀬漁港であるが、今日は連休日で魚はお休み



新江の島水族館から見た“これから歩く湘南海岸・浜辺のみち”

1954年江の島水族館としてオープン、2004年新江ノ島水族館として開館した



折角だから、砂浜に降りて歩いて行こう。海はサーファーの若者たちで一杯



「辻堂海浜公園」通称サーフビレッジと呼ばれ、更衣室、シャワー、トイレが完備している。ここではビーチバレーが開催される。



公園を抜けて国道 134 号線に出ると、関東ふれあいの道の案内板がある



「ニエール記念碑」聶氏は 1912 年中国雲南省の生まれ、音楽家。  
国家の弾圧を逃れて日本へ、ここに滞在中海水浴をして溺死。中国国家の作曲者



引地川を鵜沼橋で渡る



ここから「太平洋岸自転車道(青少年サイクリングコース)の始まり

柳島まで 7.1kmを歩こう(柳島で相模川を越えるため自転車道は途切れる)



「浜辺の歌」作詞場所。林古径は幼少の頃この浜辺を散歩した記憶を、三十数年後（大正二年）作詞し成田為三が作曲して、有名となった。  
昭和 42 年 NHK「みんなのうた」に収録され、52 年中学校の教科書に採択されている



”あした浜辺をさまよえば 昔のことぞしのばるる 風の音よ雲のさまよ よする浪も貝のいろも”  
JR 辻堂駅で、ホームに流れる音楽は、このメロディーである。



”湘南しらす” の漁をしていた。釜にお湯を沸かし、生シラスを軽くゆでる



茹でたシラスを、天日で数十分乾すと、出来上り（天候に左右されると言う）



「神奈川県立辻堂海浜公園」 藤棚には藤沢市の市花 ”ふじ” が満開、休憩所、売店、トイレも完備しているから昼食、休憩には最適な場所だ。



この先道は、飛砂に埋もれて隠れてしまう。しばらくは砂の上を歩こう



「ヘッドランド」1991年海岸の砂の浸食を防ぐため、石垣で築いた人口の岬。後方の烏帽子岩を見ながら、家族で海水浴が楽しめるようになった。



安心して海遊びができるように、ライフセービングの詰め所がある。サーファー初心者の講習も行っているという。



飛砂や照り付ける太陽のために、道標が泣いている。



茅ヶ崎に入ったら地引網をやっていた、何処か団体の園遊会なのだろう



今、地引網が終わった



いろいろな魚が混じっている



”しこいわし” 生きていうちに酢醤油で食べる、最高の酒の肴(かか)だね



再びサイクリングロードに行く



「サザンビーチがさき」1,999年茅ヶ崎出身の桑田佳祐が率いるサザンオールスターズの名にあやかって、茅ヶ崎海水浴場を改名して有名となった。C という文字の中央に立てば、幸せになれると、案内板に書いてある



茅ヶ崎漁港も、今日は休日



ゴールの柳島海岸に到着、ここから先は下水処理場となる。ここが今回コースのゴール地点。



「浜見平団地バス停」 横断歩道橋で国道 134 号線を横切り、北へ 15 分、浜見平南口交差点際にバス停がある。



時間があるので浜見平で昼食ののち、相模川を相模大橋で渡り国道を歩く



相模大橋から見た次回歩く、高麗山と湘南平の鉄塔



国道歩きはいやだね



海岸に出ても、飛砂がひどくて歩くのは大変、人も少なく手入れも滞る。



金目川(花水川)に出る。平塚駅から来るバスは、ここ西海岸バス停が次回「⑦大磯・高麗山のみち」の起点であるから、次はここから歩く。



バスで一つ先の、「なでしこ公民館前」バス停まで調査して平塚に向かった。

時間は 14 時、雷雲が発生。

30,000 歩 21.7kmであった

この項完

関東ふれあいの道(7) 神奈川(⑦大磯・高麗山のみち)に続く